

広島YWCA使命

- ①憲法の謳う恒久平和実現のため、
 第九条の非武装・不戦の誓いを広げる。
 - ②被爆の実相を継承し、ヒロシマの声を発信する。
- 2016年度広島YWCA運動の課題
- ①憲法9条を守るための活動をする。
 - ②原子力発電を否定し、ライフスタイルを見直す。
 - ③敗戦・被爆70年を過ぎ、被爆証言を若い世代に届ける。

「原爆絵画展」から 「ピースフェスタ」へ

甲府YWCA副会長 五味優子



(プロフィール)
 1987年に甲府YWCAに入会。以来、書記・会計・副会長を経て2003年～2008年会長。2009年～現在まで副会長。日本基督教団日下部教会責任役員・オルガニスト。書道教室「幽花書院」代表。

甲府YWCAの「原爆絵画展」の原点は、1945年広島原爆投下の惨状を思いだして、小林岩吉さんが描いた一枚の絵にあります。描いたのは1974年のことで、29年たつてやっと自分の目に焼き付いた光景を描き残したい気持ちになれたのでしょうか。その絵画をNHK広島放送局に届けたことが契機で、原爆の絵を残そうという運動が起り、二千枚以上の絵が寄せられ、広島平和記念資料館に展示・保管されました。日本YWCAは1970年に「核否定の思想に立つ」を表明し、「ひろしまを考える旅」が企画され、まず神戸YWCAが「原爆絵画展」を開催、続いて京都、大阪、名古屋、甲府、静岡の六市YWCAが協力して1997年まで続けました。当時は原画でしたので、手渡しの連係プレー。甲府YWCAは1981年に第一回の開催となりましたが、その三年前よりバザーをして資金作りをし、地元の県や市の教育委員会・報道機関の後援、山梨英和中高YWCA・各教会・賛助員のご協力により実現しました。また「県内在住の山梨県被爆者の会」との協賛でした。当時の会長が「戦争の悲惨さを絵画を直視することにより、平和の尊さ・生命の大切さを改めて考えていこう。」という思いで始められた「原爆絵画展」は

以来30回続きました。少数数のYWCAで、「これしかできない」「これだけしよう！」という思いと、アンケートに毎年書かれる「来年も続けてください」の言葉に突き動かされての活動でした。2005年、元広島YWCA会員の村上啓子さんに「私のヒロシマ」と題し講演をしていただき、終了後「この原爆絵画展は市民の支持を得ていますね。」と感想を述べられました。まさに多くの方々の方々の物心両面での支えがあったからこそ、と感謝の気持ちでいっぱいです。開催場所は甲府市内と県内各市町村の公民館、教会等二ヶ所以上、地元の教育委員会が好意的にバックアップして下さり、関心の強さが伺えました。展示物には原爆絵画を中心に、丸木位里・俊夫妻の「原爆の図」、広島・長崎原爆記録写真、関連資料、会員手作りのピースキルト等、同時に講演会、座談会、証言を聞く会、映画上映、朗読劇「この子たちの夏」上演、ひとり芝居、コンサート等も行いました。また原爆絵画展に備えて、学習会、読書会、連続講座等も行い、小冊子「韓国・朝鮮と私たち―被爆の歴史」や「沖縄と私たち―沖縄の歴史と現状」も発行しました。30回展を記念し、「平和ポスター」を公募、幼児から高校生まで多数の素晴らしい作品が寄せられました。一枚一枚の絵に込められた平和メッセージは見るものに真に訴えるものがあり、その思いを大切にすることが私達大人の責任であると痛感しました。2011年の東日本大震災による原発事故を契機に福島の事実も伝えようと、30回で原爆絵画展を終わりとし、「ピースフェスタ：忘れない広島・長崎・福島を！..」としました。被爆と被曝の悲惨を伝え、核のない世界をめざしつつ、「平和を実現する人々は幸いである。」のみ言葉に支えられて、これからもこの催しを続けていくことが甲府YWCAの使命と思っています。

ニュース8月号の巻頭文に寄せて

広島YWCA 会長 中木風子

甲府YWCAのピースフェスタの取り組みを広島YWCAで紹介したいと考え、この度ニュース8月号の巻頭文をお願いいたしました。お忙しい中、原稿をご準備いただいた甲府YWCA副会長・五味優子さん、甲府YWCAの皆さまには、心より感謝を申し上げます。今年の加盟YWCA中央委員会（2016年5月21,22日）にて、甲府YWCA会長・田草川すみ江さんと、交流させていただいたのがきっかけで、広島県外で続けられている平和活動を知ることができました。そのため、ピースフェスタのご紹介を強く希望したものであります。広島は原爆投下71年目の8月を迎えます。平和な世界を実現していくために、思いを一緒にするたくさんの仲間がいることを、とてもうれしく感じています。

「キリスト教あいっせお」 足立しずえ

（広島YWCA会員・広島主城教会牧師）

5回目の今回は「う」の②です。前回は「牛」そのものについての話をいかにも知っているかのように書かせていただきましたが、先日、牧師会で、ある教師より「羊」についての話を聞きました。旧約聖書の世界では身近な羊飼いがのちの教会で牧者や牧師といわれるようになります。賢い羊飼いとほなにかを考えさせられました。聖書の中の「牛」は、旧約聖書で220か所、「子牛」38か所、子牛像1（王上12:28）、「雄牛」163か所に出てきます。牛は「羊と牛」と群れとして一緒に扱われ、「雄牛」が出てくる場合はほとんどが犠牲の献げもの、そして単独で「牛」が扱われる時は律法の中で被害などの関連でのべられています。

天地創造がすべての始まりと古代の人々は考えました。しかし、私たちは創世記がもっと後の時代、紀元前500年、400年のものと知っています。その内容については1000年以上保持されていた口伝、言い伝えを使って編集されました。ですから、時間的には古い物語とされている創世記は最も新しいとまでは言えませんが、出エジプト記の物語よりも新しいと考えられます。ですから、出エジプト記の物語の方が、より古く成立していました。その出エジプト記の32章に「金の子牛物語」があります。出エジプト記はヘブライ人モーセの誕生物語から始まります。創世記と出エジプト記の橋渡しとしてヤコブの息子ヨセフ物語がありました。ヨセフは妬まれた兄たちにエジプトに売られて、その彼がエジプトで宰相

第5回 『う』②



になり、後に自分の兄弟を含む一族を救う物語です。そのヨセフとヨセフの一族、ヤコブの家族がエジプトに住み着き、おびたしい数になります。エジプトの支配者たちは彼らを数の多さゆえに恐れましました。ヘブライ人の子供、男子虐殺命令が出されるところから出エジプト記が始まります。モーセも生まれますが殺害命令から逃れ、エジプトの王女に拾われ、宮殿で王子と一緒に育っていきます。モーセは王女に助けられ、一気に青年モーセとして登場します。彼は自分がエジプト人ではなく奴隷のヘブライ人であるというのを知っていました。同胞が奴隷として苦しめられているのを知り、鞭打つエジプト人を殺害します。その後、今度は同胞同士がケンカをしているのを見て「なぜ同胞同士で打つのか」と悪い方をたしなめました。すると誰にも見られていないと思っていたエジプト人殺しのことを非難されます。そのことがエジプトの王に知れ渡り、モーセは追われますが、ミディアンの地に逃れることが出来ました。その地で羊の群れに水を飲ますために来ていたある祭司の娘たちを水飲み場で助け、祭司のもとに留まる決意をし、そのうち一人を妻としました。

そして怒涛のエジプト脱出の話になります。モーセの召命、エジプトに戻る、アラオとの交渉、アロンの役割、7つの災い、主の過ぎ越し、エジプト脱出、放浪、シナイ山、十戒、律法の二枚の板授与、そして32章となります。次回「金の子牛」物語です。 続く。

学校法人女子学院様（東京都・千代田区）よりタオルの寄付をいただきました。
 募金事業部会
 女子学院より、毎年、未使用のタオルを寄付があり、今年も丁寧な梱包をされて届きました。仮会館内のミニショップにて、バザー販売しています。ぜひ、ご利用ください。



《 感 謝 》 2016年6月1日～2016年7月31日（敬称略）

（賛助費） 大月純子 味村真知子 新田和子 大野妙子 黒多みなみ
 （一般寄付） 益田 遥 手島千景 沼田郁子 新田和子 平田香都子 てのひら 世良雅子 原田香代子
 波藤紀江 臼井 泉 キリスト教愛真高校 夾竹桃 難波郁江 常定美保子 森元榮子 沼田良平

ご協力に心よりお礼申し上げます。



《理事会・定例会》

5月 第1回 定例会（日時：2016年5月17日（火）19:00～20:30 会場：広島YWCA 仮会館）
 1、オリエンテーション ①YWCA（組織と会員活動）について ②自己紹介 2、協議事項 ①前回議事録の承認 ②組織と担当の確認 ③スケジュール・予算の確認 ④交通費規程について 3、報告事項 ①各部会・広報部会 ニュース6月号について・平和活動部会 5/15（日）益田小えんさんについての講演会・HEP部会 4/29（祝・金）アーススクール / 若草晩餐会 ・夕張中学校受け入れ担当者会の開催について ②日本YWCA 関係（中央委員会・日韓シニアカンファレンス・ひろしまを考える旅等）

6月 第2回 定時理事会（日時：2016年6月27日（火）19:00～ 20:30 会場：広島YWCA 仮会館）
 1、報告事項 ① 会計報告 ②各部会・広報部会 7月お知らせについて・平和活動部会 8.5フィールドワーク・HEP部会 若草晩餐会 宮崎さゆり詩の朗読会 7/16 ・募金事業部会 東区女性会まつり参加報告・キリスト教基盤部会 日本キリスト教団西中国教区信徒大会派遣 ・夕張中学生受け入れ担当者会議 担当者会報告 6/12 夕張市教育委員会訪問・夕張中学校説明会出席について ・生涯教育事業ピーターバラカンDJライブ 10/1 手づくりカフェ陶芸の時間について 2、協議事項 ① ひろしまを考える旅2016 実行委員派遣について ②新規事業 ・子ども食堂事業について ③長期会館計画委員会について ④日本YWCA 関係 ⑤役員変更登記について

7月 第2回 定例会（日時：2016年7月19日（火）19:00～ 20:30 会場：広島YWCA 仮会館）
 1、報告事項 ①各部会報告 ②夕張中学生受け入れ担当者会議（スケジュール表の確認、夕張市教育委員会訪問・中学校説明会出席報告 7/6～7/7） ③生涯教育事業 ピーターバラカンDJライブ 手づくりカフェ陶芸の時間 2、協議事項 ①新規事業について ②長期会館計画について 議題に関し、報告、協議、決定を行った。

【報告】

2016年度日本キリスト教団西中国教区

教区信徒大会に参加して

広島YWCA理事 藤井瑠璃子

2016年7月17日～18日、山口市・湯田温泉「ホテルかめ福」にて行われた教区信徒大会に行ってきました。テーマ「“老いと死”の恵みとわたしたちの生き方～現場から信仰を考える～」で川越厚さんのお話を伺いました。多くの患者さんを看取ってこられた経験からユーモアも交え、とても楽しくお話しくださいました。また、広島YWCAより、福島の桃ジュースやアーサービナードさんの絵本などを販売しましたが、ジュースは2箱完売しました。子ども食堂のチラシを渡すと、「行きたいです」「応援します」との声も多く頂き、とても励まされました。

【予告】

川越厚さん講演会 実施のお知らせ

今年も川越厚さんにお越しいただき、講演会を開催することが決まりました。10月28日(金)午前中の予定です。詳細は、次回おしらせに掲載いたします。お楽しみに。



(プロフィール)

川越 厚 (かわごえ こう)

医療法人社団「バリアン」理事長

クリニック川越院長

1947年 山口県山口市生まれ。
1966年 私立広島学院高校卒業。
1973年 東京大学医学部卒業。
茨城県立中央病院産婦人科医長、東京大学講師、
白十字診療所在宅ホスピス部長を経て、
1994年より6年間、賛育会病院長を務め、退職。
2000年6月、自らのクリニックを開業すると同時に、
在宅ケア支援グループ「バリアン」を設立。
2010年 第6回ヘルシー・ソサイエティ賞 受賞
NHK 第245回「プロフェッショナル 仕事の流儀」出演
(著書)「家で死にたい」「生と死のはざま」保健同人社、「終末期の自己決定を支える訪問看護」日本看護協会出版会、「在宅ホスピスケア」医学書院 他著書多数。



ロクナナヤーン・ワカクサ

67Y_W (こども食堂) 次回は8月23日(火)です

内容: カレーパーティー 17:30~会食スタート

会費: 大人300円 こども100円

大人向けプログラム①「子どもの貧困とサポートについて」(仮題)

講師 岡崎仁史先生(広島国際大学医療福祉学部教授)

日時 8月23日 16:00~16:30 大人対象: 参加費無料

ロクナナヤーン・ワカクサは、広島YWCAの子ども成長を支援するプロジェクト名です。

子どもの置かれている現状や、支援について、一緒に学びませんか? 皆様のご参加をお待ちしています。



4月、初めての若草晩餐会



5月、「テーマ 塩」鯛の塩釜焼き



6月、三戸さんを囲んで

若草晩餐会は、知り合いの輪を広げるために、みんなで食事を共にしようという趣旨で始めた会です。参加者にくつろいでもらえるように、アットホームな雰囲気での運営を心がけています。YWCAの関係者、プログラムを利用された方、参加のお友達や家族、近所にお住まいの方など、様々な方が来られるようになりまし。 6月には、参加者のお一人、トルコ食材の輸入販売店を経営されている三戸雅彦さんの企画、準備による「飛んでイスタンブール トルコの食材を味わおうオリエンタルな夕べ」を開催しました。定員を超える参加希望があり大盛況でした。食材の説明を受け、レシピを教えてください、とても楽しい会になりました。さらに、おいしいソースがフライパンに残っていたので、即興でバスタがふるまわれました。 8月には再び三戸さんをお願いして、「厳しい残暑をスパイスでのりきる、カレーパーティー」を催す運びとなりました。こんな風に、参加者の中から、企画をつくってくださったたり、準備を手伝っていただいたり、徐々に関わり合いが深くなっていることを実感しています。 この会を通じて、三戸さんのように企画を実現させる人が出てきたのは、非常にうれしいことでした。今後は、自主的に手伝ってくれる仲間を増やすこと、そしてYWCAの活動について、より知ってもらえるようにすることが課題だと感じています。

【報告】 若草晩餐会

広島YWCA HEP(ヘルプ)メンバー(メント)プログラム)部会担当 中木風子 広島YWCA HEP部会

夕張市教育委員会をお訪ねして (報告)

2016年7月6日(水)~7日(木)

平城 智恵子(広島YWCA常勤理事・幹事)

昨年2015年度をもって広島YWCA主催の「夕張の中学生をヒロシマに招くプロジェクト」は終了した。私たちは一抹の寂しさも感じながらも8年間の歩みを報告書に記した。

そんなとき夕張より、事業終了を報じた北海道新聞の記事がきっかけで札幌市の篤志家により夕張市教育委員会へ寄付の申し出があり、今後10年間の派遣継続が可能になった、との知らせが舞い込んだ。再会を期した私たちの願いがかなったのだ。

これからは、主催者は「夕張市教育委員会」となり、広島YWCAを中心としたメンバーで平和学習を担当するという形式になる。主催者変更にあたり、夕張市教育委員会担当者と派遣事務の引継ぎを行うために、2016年7月6日(水)から7日(木)、私は夕張市教育委員会を訪問し、教育委員会の要請により夕張中学校での平和教育授業を担当した。

初めて訪れる7月の夕張市は新緑の真っ盛りだった。標高300メートルの位置にある夕張市役所で小林信男教育長をはじめ、夕張市教育課堀靖樹主幹、阿部掲子アドバイザーにお会いして、これまでの経緯や成果を話し合い、今後へ向けての新たな取り組みと事務作業の手順と内容を確認しあった。

次に夕張中学校(6年前に4校を1校に統合)で開催された派遣打ち合わせ会で、派遣生徒と保護者、教育長、学校長、教諭のみなさんと、今回の派遣の目的、内容を確認しあった。(今年は9人の志望者から厳しい選考を経て2人が選ばれた。)

7日(木)午後には、全校生徒180人に向けての「平和教育」の授業を担当した。広島市民や広島YWCAがこの70年間取り組んできた平和構築のあゆみを紹介し、改めて見直す市民活動のパワーについて、中学生とやり取りしながら伝えた。

2006年の夕張市財政破綻から10年の節目を迎えての今年、市では依然厳しい現状が続いているとの新聞報道情報を携えての訪問だった。そんな心配をよそに、夕張市ではおいしいメロンが今年もたくさん収穫されていた。レジャー施設だった石炭博物館は、教育委員会の所管になり新たなスタートへ向けて大規模修繕工事が始まっていた。山全体が国の天然記念物である秀峰「夕張岳」(標高1668m)はそんな町を背後から見守っているようだった。市民が丸となって地域再生に取り組んでいる様子は子どもたちの表情にもしっかりとあらわれていた。

夕張市の現状は、日本全体の未来像と言われる。先を行く夕張から教わることがたくさんある。今後のヒロシマ学習担当を、改めて広島YWCAの活動の中心にしていけるよう、また広島市民の協力者を増やしていけるよう頑張っていきたいとの思いを強くした訪問だった。



おやつをどうぞ

広島YWCA会員おすすめ 型いらずのレモンクッキー

【材料】

薄力粉 100g 砂糖 40g 牛乳 大さじ2
ベーキングパウダー 小さじ1/2 レモン 1/2個

【作りかた】

- ①バター100g、砂糖40g、牛乳大さじ2をボールに入れて泡立て器で混ぜます。
- ②ふるった薄力粉を①に入れてゴムベラで混ぜます。
- ③レモン1/2個のしぼり汁と、皮をすりおろして②に加えます。
- ④ぼろぼろとしたソボロ状になったら手でこねて、1つのまとまりにします。
- ⑤生地を棒状に整えて、ラップに包みます。
- ⑥冷凍庫で1時間休ませます。
- ⑦凍った生地を、5mmの厚さに切ります。
- ⑧170°のオーブンで10~15分焼きます。

レシピカードとしてご利用ください。